

# サーバス九州



日本サーバス九州支部会報 No.132 2008年11月28日

九州支部長

## 1. お知らせ

### 日本サーバス九州支部例会(忘年会)ご案内

去る4月の支部会議において鹿児島地区で例会を！との要望がありました。大変遅れた感がありますが、「朝日が昇る頃、鶴の飛ぶ美しさを見る」そして「会員とともに親睦交流を深める」例会を下記のように計画しました。師走でお忙しいとは思いますが、皆様どうぞご参加下さい。

記

- 1) 日時:2008年12月20日(土)18時より例会
- 2) 場所:ホテルウィングインターナショナル出水  
〒899-0202 鹿児島県出水市昭和町 48-5;TEL. 0996-63-8111  
<http://www.hotelwing.co.jp/izumi/access.html> JR出水駅より徒歩1分  
上記ホテル宿泊料金 twin 8280円(2人)、single 4800円  
例会の食事 3000円程度、朝食 700円
- 3) 12月20日(土)の計画
  - (i) 例会前に都合のつく方は以下のところへ行きますので15時にホテルに御集合下さい。  
予定: 15時ホテル出発、東光山(出水平野を一望)、武家屋敷、湯川内温泉かじか荘(島津家御用達の温泉)
  - (ii) 18時よりホテルのレストランで例会  
各会員のホスト受け入れ、海外での経験、各地区での状況報告等を行い、会員間の親睦・交流を行います。
- 4) 12月21日(日)の計画  
午前6時半ホテルを車で鶴の飛来地へ出発、8時頃ホテルへ戻り朝食、チェックアウトの後、日本最古の禅寺(島津家初代忠久創建、1853/8/23 篤姫参拝の記録あり)を観光の後解散。
- 5) 参加申し込み先: サーバス九州事務局  
○申し込み締め切り: 12月7日(日)までにお願い致します。

## 2. トラベラー受け入れ報告

○会員（佐世保市）

期間：2008年5月13日～5月14日； K & P さん(フランス)

家内がグラウンドゴルフをしていますので、2人を連れて行き、2ラウンド回りました。クリスチャンはホールインワンをだしました。

「陶器の有田」と「歴史の平戸」とどちらが良いか尋ねましたところ平戸が良いということになり、私が置いている日本ミツバチの見回りを兼ねて平戸に連れて行きました。風景に感動したようでした。平戸海峡の写真は車で走っていて「止めて！」と言ったので止めた風景です。「あなたは天国みたいな所に住んでいる」と言いますので「慣れっこになって何も特別の感慨はない」と答えました。

2人は教会に行かないカトリックでしたが、私もカトリックの生まれで、祖先は五島キリシタンでしたので、自然と平戸の教会巡りをするようになりました。私は今では信仰していませんがキリスト教には詳



しいほうです。平戸近郊ではポルトガルやスペインの宣教師が殉教し、フランスの神父も教会堂建設に献身していますが、そんなことは案内書には書かれてなく、現場を見て、身近なヨーロッパ人が、100年も200年も前に、こんな



遠いところまで来て足跡を残したことに感動していました。

昔はヨーロッパ式に墓石は寝ていましたが、時代と共にだんだん日本式の立ち墓石に変わっていく様子や、墓石に「天に栄光、地に平安を」とラ



テン語で彫り込まれていることに興味深げでした。

○会員（飯塚市）

期間：2008年5月20日； D さん（アフガニスタン）

アフガニスタンより D さんという方が福岡にこられました。もともとイギリス人で、今は仕事のため（世界銀行勤務？）にアフガニスタンで生活しているとのことでした。サーバスメンバーには、パプアニューギニアにいるときになったといわれていました。サーバスのメンバーということで、友人と共にデイホストをしたのですが、彼はサーバスメンバーと証明できるものを持っていませんでした。実際あったとき、どうしようかと思いましたが、感じのよい方だったためホストをそのまま引き受けることにしました。後日、郵送するということができたのですが、証明書は実家のイギリスにあるとのこと、まだ届いていません。一応、受け入れレポートを提出しなければいけないため、正確な住所など知らせるようにメールし、以下のようにメールを頂きました。

My full name is D. P. M., I was born on the 26 August 1977 so my age is currently 30. My permanent address is:

152 . . . . ., United Kingdom

but I am currently working in Afghanistan.

I hope this information helps with your report write-up.

I really enjoyed my time with you and your friends. I hope we will have the opportunity to meet again.

Please take care and stay in touch.

Dominic

本来であれば、きちんとトラベラーの証明書を提出してもらってからホストをするべきですが、私の住む町まで来ていただいたという気持ちがあって、ホストを引き受けてしまいました。きちんとした証明書を持たないトラベラーとの対応についてちょっと考えさせられる場面でした。



○ 会員夫妻(大分市)

1) 期間:2008年9月2日～9月4日; Jさん(ドイツ人、大学生)

京都大学での数週間研修の研修後、帰国前に日本国内を旅行されているようでした。サーバスを利用するのは、私の家が最初だったようです。本当にまじめな学生さんで、富士登山をしたり、高地では、焼岳にも登られたみたいで、九州では阿蘇山に登りたいと言う希望を持っておられました。徒歩での登山は、ご案内するのに時間的な無理があるため車での登



山で我慢して貰いました。ただ、山頂近くでは、二人で草千里の周辺を1時間近く散策して、ちょっぴり登山した感じを味わいました。

2) 期間:2008年7月4日～7月6日; I & Sさん(スペイン、フランス語教師の母と息子)

アクティビティーなお母

さんと、シャイな息子さん親子でした。イザベラさんは、体験する事が大好き、別府の砂湯の体験は大いに気に入って貰いました。又、本当のネイチャーな温泉を体験したいと言われるので、別府の鶴の湯と言う、まったく山の中の谷川が温泉になっている温泉場(囲いも何もない)に案内しました。残念な事に3人の男性の先客がいたため、入浴はできませんでしたが、谷川が温泉であることが、ことのほか珍しい様子でした。3日目、臼杵を観光した後、宮崎にたって行かれました。

○ 会員夫妻(宮崎市)

1) 期間:2008年7月4日; Mさん(ニューヨーク、ジャーナリスト)

ニューヨーク在住のジャーナリストで、大学教授であるMさんが、宮崎市の会員宅に2泊の中、宮崎市の7名の会員の交流会に参加された。前もってWEB検索で見つけた彼の記事(日本語)を読んでいたこともあり、ロックフェラーとアメリカ大統領、日本の政治家との関係についての話は大変興味ある話となった。彼は自分の書いた記事を同席の会員に読んでもらいたいと願い、上記の記事や「世界(岩波、2007年1月号P.171)」の報告をコピーした。2時間程度の集まりであったが楽しい交流の場となった。

2) 期間:2008年7月4日～7月6日; I & S(スペイン、バルセロナ、フランス語教師の母と息子)

バルセロナのサーバス支部長をされていることを知り同じ立場ということから、大変感じよい交流ができた。大分から宮崎入りされ、我が家で1泊の限られた時間であったが、スペインの北と南の人々の習慣や性格の違い、また、仕事している高校の教育の現状で外国人の割合が多くなり教科の教育レベルの置き所が問題になっているということなどの話は興味あった。

### 3. サーバス旅行報告

○ ニューヨークそしてバミューダ諸島 (2008年5月8日～2008年5月22日)

筑紫野市 会員

バミューダのサーバスフレンドがヨーロッパに引っ越す前にニューヨーク経由で訪ねることになった。

5/8(木) 晴れ。同日昼前にNY着。成田で偶然マニラに強制送還されるグループを間近に見た。遊びに行く人ばかりじゃないんだ。NYは小雨で肌寒い。マンハッタンのJ&B宅に向かう。Bさんとサウスストリート・シーポートに行きJさんと合流してギリシャ料理店へ。夜ブロードウェイミュージカルを楽しんだが如何せん長いフライトの後で時折舟を漕ぐ。夜もタイムズスクエアは人で溢れている。セント・パトリック教会を抜け22:45頃ロックフェラーセンターの屋上からNYの夜景を堪能する。23:30頃家に着くとふたりが心配していた。

5/9(金) 雨。朝、国連本部へ向かう。今回一番訪ねたい場所だ。ツアーに参加しTVで見る国連本会場に足を踏み入れた時は感動した。信託統治理事会会場ではまさに会議中だった。中国人ガイドが流暢な英語ながら発音が悪く聞き辛い。雨の日は美術館で過ごそうとメトロポリタン美術館とフリック・コレクションを訪れる。大好きなフェルメールの絵に見入る。直前にNHKで見たサージェントの「マダムX」を探す。フリック・コレクションでは建築様式も重厚で



収集品も見応えがある。またフェルメールの絵を堪能。ベンチに腰掛けた途端に睡魔が襲う。映画「恋に落ちて」の舞台グランドセントラル駅で遅いランチをとる。夜は肉料理が得意なジョンが腕を奮いビーフと暖かい野菜、ワインをいただく。

5 / 10 (土) 晴れ。寝坊した。「しっかり眠れて良かったね。」とBさんが笑っている。エンパイア・ステートビルからの眺めは最高だ。五番街を散策しセント・パトリック教会を観る。週末でセントラルパークは家族連れで賑わい観光馬車が行き交っている。帰りのバスでカナダ人女性に日本語で声を掛けられた。留学経験があるそうで話に夢中になり降り損ねてしまう。「済みませ〜ん。」と彼女の声がした。驚いたことにNYでクレーンが倒れ7人が死亡した事故現場はBさんの家の数軒隣でその瞬間家に居たと言う。夕方の汽車でハドソン川の眺めがよいブロンクスのルースの家へ。黄昏時の散歩を楽しんでタイ料理店へ。

5 / 11 (日) 晴れ。バスでハドソン川沿いのウェイブヒルという美しい植物園/展望所へ向かう。バードウォッチングのグループがいる。有難いことに職員が最寄駅まで送ってくれた。バッテリーパークでの自由の女神を観るフェリーの列が信じられない位長い。海は風が強くとっても寒い。エリス島で移住者の当時の悲惨な状況を知り胸が詰まる。夜、Lさんと友人夫妻とアイリッシュパブへ。奥さんが日系二世で話が弾んだ。

5 / 12 (月) 雨。13度で実に寒い。朝Bさんの家に行き荷物を預かってもらう。有難い申し出だ。雨足が強いが国立アメリカン・インディアン博物館へ。昔税関だった重厚な建物だ。その後トリニティ教会、ウォール街、証券取引所、ジョージ・ワシントンが就任演説をしたフェデラルホール、グラウンド・ゼロへ。センチュリー21へも寄ったが荷物は増やさない。Bさんの家へ荷物を取りに行く。「本当にエネルギー女性ね。」とJさんとふたりで見送ってくれた。明日が早いので今夜はJFK近くのホテルに泊まる。何故かNYではあまり眠れなかった。

5 / 13 (火) 晴れ。9:50の便でバミューダへ。Cさんが従妹のRさんと迎えに来てくれた。三年ぶりの再会だ。海はエメラルドグリーン、屋根は全て白、壁はパステルカラーだ。まるで愛らしいお菓子の家だ。地下のタンクに雨水を溜めそのまま使う為昔から白い漆喰の屋根なのだ。数年毎に塗り替えるという。壁中が名刺と客のサインで埋め尽くされた有名レストランでランチ。Cさんの家は丘の上にある。12歳の娘キャサリンと再会、愛犬ミスティもいる。夕方、弟Tさんの家に行きカナダからのゲスト、親戚、友人などと賑やかにパーティーをする。Tさんは料理名人だ。街に繰り出して飲み直すというのでさすがに家に送ってもらいそのままベッドへ。

5 / 14 (水) 晴れ。6:00にキャシーが起こしに来た。乗馬に招待してくれたのだ。6人でビーチへの乗馬を楽しむ。絵のように美しい海に大きな虹が架かり歓声が上がる。Tさんの家で朝食後、若い娘さん達とフェリーでハミルトン(首都)にショッピングに。昼前男性三人がバイクで迎えに来てヘルメットを被ってバイクに跨る。街中を見渡せるハミルトン砦でCさんと合流しピクニックとしゃれる。気持ちいい！彼等の一族が経営するラム酒工場を見学に行く。夕方来客がありラム酒とジンジャービールを混ぜたダーク&ストーミーを勧められる。美味いが強くて酔う。夜ハーバー・フェスティバルに繰り出す。ノルウェーの大型クルーズ船が停泊している。鮮やかな衣装を纏い激しいテンポで踊る集団を囲む観客が小銭を投げる。生のバンドや夜店も出ている。レストランでは大きな海老のカクテルを注文。ぷりぷりで美味しい！

5 / 15 (木) 晴れ。キャシーが風邪をひきゆっくりしたいということでこちらも二度寝。バミューダではぐっすり眠れる。陽の当たるテラスで贅沢に朝食をとり近所を散策する。買い物の後、海を見渡す展望所へドライブする。午後、徒歩5分の植物園に出掛ける。夜、料理名人クレアのお宅でパーティー。あまりに美味しいのでレシピを戴く。Tさんがしきりにジェットスキーに誘ってくれたが水着は着たくない、水にもつかりたくないのだ！

5 / 16 (金) 晴れ。歩いてハミルトンへ向かう。交通量の多いロータリーで名物おじさんジョニー・バーンズがアイラブユーと車に向かって盛んに投げキスをしている。車も時折クラクションを鳴らして挨拶する。退職後長年毎朝4H欠かさず立っているという。彼の銅像も絵葉書もある。学生達が側で合唱している。手招きされ一緒に写真を撮り絵葉書もくれ両手を取って祈ってもくれた。カテドラル、最高裁判所、議事堂、美術館のあるタウンホールなどを廻る。午後のフェリーでドックヤードに向かう。かつて海軍の施設と砦があり今は海洋博物館になっている人気のスポットだ。夜、皆で豚のコインで有名なレストランへ行く。ジャズライブを聴きに行きまた次の店へ。

5 / 17 (土) 曇り。Cさんとセント・ジョージ島にドライブした。いくつか砦を廻りジョージ・ソマース 船長が難破して最初に上陸した街、当時の帆船、死後その心臓を埋めたという墓、未完の教会、400年前の古い家並み、タウンホールなどを廻る。観光用のギロチン台で首や手足を突っ込んでみる。夜はSさん宅でパーティーなので買い物をし準備を手伝う。19:00過ぎ人が集まり始め犬も4匹いて犬を亡くしたばかりの身には嬉しい。夜遅くまで賑わう。

5 / 18 (日) 晴れ。8:00過ぎテッドの家へ。日曜の朝に総勢17人で朝食パーティーだ。美味しいビュッフェ形式の朝食をとる。昼頃9人でTさんのヨットに乗る。天気は良いが風が強い。操縦したり船首に座ったりセリングは最高だったが4Hも乗ると日焼けはするわ、お腹はすくわでさすがに長い。そのままTさんの家で夕食もご馳走になる。隣に住む従妹のRさんが近々ゲストハウスを始めるという改装中の広大な庭、海を望むデッキ、家などを案内してくれる。

5 / 19 (月) 曇り。Kさんを学校に送った後Tさんの家へ。Cさんは仕事へ。イギリスからのゲストと朝食をとりその後Tさんと4人で海岸まで往復3時間のロングウォーキングを楽しむ。いい汗をかき昼前に戻る。バミューダ最後の日なので午後はひとりで観光予定だ。TさんとRe夫妻にハミルトンのヨットクラブでランチに招待される。バスでクリスタルケイブという鍾乳洞に行く。素敵な人達に出会えて実に楽しかった。

5 / 20 (火) 曇り。Cさんも今日イタリアに新しい家を探しに行く。空港に向かう途中Cさんがパスポートがないという。フルスピードでとって返す。12:15 それぞれの便でイタリアとJFKへ。NYは雨でとても寒かった。9.11以降荷物を預ける所が無いのでJさんがマンハッタンの事務所で預かってくれた。中華街、リータ周辺を散策してJさんと合流

しベトナム料理店へ。ブルックリンの家に着くとKさんも帰宅。すぐ近くの店の韓国人女性オーナーが数日前射殺され沢山の花束が店先に手向けられていた。物静かなご夫婦で又是非来てとお誘いを受ける。楽しかった2週間の旅も瞬く間に終わった。翌日の便で成田へ。5 / 22(木) 夜遅く自宅へ戻る



## ○ ウガンダ旅行レポート

大牟田市 会員

2008年3月26日、2年4か月暮らしたボツワナを出発してから、ウガンダへ旅行した時の報告をします。(首都カンパラ泊は全てMさんの家にお世話になりました)

- 3月26日 ボツワナ → ウガンダ (カンパラ泊)
- 3月27日 カンパラ (カンパラ泊)
- 3月28日 カンパラ → ジンジャ (ジンジャ泊)
- 3月29日 ジンジャ → ムバレ (ムバレ泊)
- 3月30日 シピフォール (ムバレ泊)
- 3月31日 ムバレ → ジンジャ (ジンジャ泊)
- 4月1日 ジンジャ → カンパラ (カンパラ泊)
- 4月2日 カンパラ (カンパラ泊)
- 4月3日 ウガンダ発

ボツワナは乾燥しているため、どうしても緑が多いウガンダにずっと行きたくて、念願のウガンダ旅行！数か月前からお世話になるMさんとは連絡を取り合っていたため、何の心配もなくウガンダに到着しました。Mさんは、自分で職業訓練校 NGO を立ち上げて、一生懸命頑張っている人でした。Moses さんに首都中いろいろ連れていってもらいました。首都カンパラにある大きな市場は、何時間いても飽きませんでした。

ウガンダ料理もどれもおいしく、パイナップルは今まで食べたパイナップルの中で一番おいしかったです！ また、ウガンダ人はみんな知的な顔立ちをしていて品があり、控え目で、優しい感じでした。ウガンダ在住の日本人によると、気候もよく、年間を通してほとんど気温の変化がないので、緊張感がなく、ダラーっとした性格だと言っていました(笑) おっとりした感じがとても好印象でした。

Mさんは、妹さん2人と住んでいました。大学生の妹さんは、料理、洗たく、掃除もこなし、さすがアフリカの女性は働き者だ！と感心させられました。穴だけあいているトイレが気に入って写真を撮っていたら、その姿を見て笑っていました。首都をちょっと出ると、休みの日はみんな川で洗濯をされていて、緑がとてもきれいで、空もきれいで、バナナがあちこちで見れました。ウガンダにはまたぜひ行きたいと思います。Moses さんも日本に来たいと熱望してあったので、再会できる日を楽しみにしています。

## ○ ヨーロッパ旅行サーバスティ報告

宮崎市 会員

2008年4月3日から5月17日の日程で、定年退職後の私の念願であったヨーロッパを1人旅してきました。1か月半かけて訪れた国は 9 か国(オランダ、フランス、スイス、オーストリア、ドイツ、チェコ、デンマーク、ベルギー、ルクセンブルク)です。このうちサーバスティは、オランダ、ドイツ、デンマークの 3 か国 4 家庭でお世話になりました。

旅行中、たくさんのすばらしい出会いやいろいろな出来事がありました。今回は、サーバスティを中心にして道中のハプニングを含めながらご報告いたします。



① オランダ(M & L 夫妻) 4月4日~4月6日

我が家に9年前ステイしました。当時、奥様のMさんは学校の教師、ご主人のLさんは化学者で研究機関に勤めていましたが、今は共に退職しています。

4月5日(土)・・・夕方、アムステルダム駅から電車約30分でBreukelen 駅に到着。予め電話していたので、夫妻が駅のプラットホームで待っていてくれました。9年ぶりの再会でしたが、Margotの「照文はちっとも変わっていないね」の一言が、この歳になっても男でありながら嬉しくもありました。

夕食にオランダ料理をご馳走になった後、運河沿いにこの辺りまで一番古い Castle までドライブ。大都会のアムステルダムとは、また違

ったのどかな美しい田園が広がっており、このような環境に住めることをうらやましく思いました。帰宅後、お互いの近況や、私のオランダの印象、老人福祉の問題やそれぞれの政治状況などの話をしました。

4月6日(日)・・・夫妻がアムステルダム郊外の東部と北部を案内してくれました。Monkが興したコミュニティで後にdike で本島とつながった Marken に行きました。Zaanse Schans(ザンセ・スハンス)では、風車の内部を見学しました。



Muderslot には、大きな古い Castle がありましたが、入場時間に間に合わず残念ながら見学できませんでした。民族博物館や街の散策などを通じて、オランダの歴史や伝統の一部を理解できた一日でした。

観光に出かける途中で、夫妻の家の近くにある老人ホームに立ち寄って見学したのですが、きちんと蝶ネクタイを着けたクラークのいるレストランや豪華なロビー、専用の薬局や医師も常駐している充実した施設には、日本との格差を思い知らされました。

4月7日(月)・・・朝食後、Lさんに駅まで送ってもらい、アムステルダム発9時26分の電車でパリに向かう。13年前の旅行で妻とパリに旅行した際に見損なったオルセー美術館を訪れるのが大きな目的でした。車中で、いきなり乗客が大声で平気で携帯電話す

るのには、ちょっと驚きました。地平線まで続く車窓からの田園風景が、まるで絵本のように感動しました。

4月9日(水)の事件・・・次の目的地であるスイスのローザンヌに向かうため、パリ北駅構内を歩いていたところ、キャスター付きのスーツケースを引いた若い日本人女性から「Do you speak Japanese?」と話しかけられました。日本人であることを告げると、途端に私の腕に両手を置いて泣き始め「助けてください」と言うのです。話を聞くと、「昨夜ドイツから夜行列車に乗り、パリに着いたが寝台列車の中で現金20万円を盗られた。現金が全くない。警察に届けたが、英語がなかなか通じず、ここでは取り扱えないので別の場所に行くようにと言うばかりで、窮状を訴えても全然とってこない。地下鉄切符を買うお金もないし、乗車方法も分からないので日本人を探していた。」とのことでした。私も、次の目的地に向かう時間が迫っておりました。取り敢えず、持ち合わせの25ユーロと地下鉄乗車回数券の未使用分を渡しました。他の助けを探すため、通りがかりの若い東洋人女性に声をかけたところ、たまたまその人も日本人観光客で「私は、今日はフリーなので助けてあげましょう。」ということになりました。後のことを、その女性に託し、ローザンヌに向かいました。

4月12日(土)の事件・・・チューリヒ、ペンション宿泊

午後8時頃は、まだ日中のように明るいので、レストランでの夕食後にペンション近くの裏通りにある小さな広場で休憩していると、40歳前後の男が現れて、いきなり広場にあった女神像の写真を携帯電話で撮り始めました。私に、別の角度から撮ってくれないかと言うので、構えたところに別の50歳前後のずんぐりした男が現れ、「俺は警察だ。パスポートを見せろ」というのです。制服も着ていないし、そもそもこんな裏通りで要求すること自体が怪しいです。携帯写真の男は、すぐ「パスポート」を呈示しましたが、「警官」はそれを開きもしないで「OK」と言いました。私は、「あなたの証明書を見せろ」と要求したところ、まるで学生証のような透明のビニールケースに入った粗末な「証明書」を見せました。この2人は、グルだと思ったので私は拒否してその場を足早に立ち去りました。



後に訪れるプラハでは、気をつけないといけないと思っていたのですが、まさかチューリヒでこのようなことがあるとは、考えてもいませんでした。外国の1人旅の安全はまさに自己責任であり、十分アンテナを張らねばならないことの必要性を痛感しました。

## ② ドイツ(Sさん)4月18日(金)～4月20日(日)

Sさんとは、彼女が昨年6月に宮崎のAさん宅にステイした時に、一緒にデイホストさせていただいたのが最初の出会いです。ミュンヘン駅近くの放送関連会社に勤務しています。4月18日(金)・・・ウィーン発8:22の電車でミュンヘンに向かう。車中のコンパートメントで11歳の男の子と夫婦の家族連れと一緒にになりました。サッカーとテニスが好きという少年は利発そうで、私によく話しかけてきました。時折、父親の英語通訳を交えながら、家族と話をしました。家族はザルツブルグで降りましたが、別れ際に少年に私が持ち合わせていた日本の土産(ボールペン)を渡しながら、「君は利口な少年だ。君の夢が将来実現することを願っている」と言う。「ありがとう。いい旅を」と言ってくれました。いい旅の出会いのひとコマでした。



昼過ぎにミュンヘン駅に到着。Sさんの会社まで歩いていき、久しぶりの再会を果たしました。職場の数人の同僚に紹介してくれたので、予め練習していた簡単なドイツ語で挨拶をしました。社員食堂で一緒に昼食をとった後、会社の中を案内してくれました。勤務終了後、Sさんの自宅に自家用車で向かいました。ミュンヘンから約20分で到着。周りは田園地帯で騒音は一切なく、ただただ小鳥のさえずりと風の囁きしか聞こえない、牧歌的なような環境です。いろいろなお喋りをしながら一緒に約4kmの散歩をした後、ギョウザに似たドイツ料理のパスタをいただきました。談笑後、私は1人で彼女から依頼された英文の手紙を日本語に翻訳しました。

4月19日(土)・・・天気が悪いので遠出外出を変更。朝食の後、昨夜、私の訳した日本語訳を彼女とお互いに確認しました。OKということになり、彼女は非常に喜んでくれました。

近くのレストランに行き、ポテトとポークのドイツ料理を食べた後、近くの湖までウォーキング。夏は泳げるほどきれいな湖を一周しました。彼女から10K歩いたのよと聞かされびっくりしました。素晴らしい風景でしたので、飽きることなく、そのような実感は私には全くなかったのです。

4月20日(日)・・・Sさんの車でTulzing湖に行き、湖畔を散策しました。南の方角には雪をかぶったアルプスを遠望できました。湖畔にはたくさんの方がウォーキングやサイクリングなどを楽しんでいました。遊覧船も浮かんでいました。

14時の電車でSさんが勧めてくれたGarmishに向かうため、Tulzing駅に行きましたが、別れ際に手さげ袋に入れた水、ジュースとクッキーを私にもたせました。思わぬ細かい心配りに感謝しました。「妻の英子は、いつドイツに来るのか、来年か？」とも言いました。再会を約束して車上の人となりました。

ウィーンまでの1人旅で少々疲れていたのですが、このSさん宅での3日間のリラックスしたステイはいい気分転換になり、リフレッシュできました。

## ③ ドイツ(Jさん) 4月25日(金)～4月27日(日)

JさんはSさんが紹介してくれた女性です。Sさんと別れて、ロマンティック街道を北上した後、プラハに行くために再びミュンヘンに戻りホテルに泊まる予定であることを話したところ、Sさんが友達であるJさんを紹介してくれたのです。Jさんは、web designerという仕事をしています。

4月25日(金)・・・ローテンブルグからニュルンベルグを経て夕方5時頃にミュンヘンに到着。ステイ先のJさんの家に行こうと地下鉄駅構内で路線図とにらめっこしていたところ、ドイツ人の男性から声をかけられました。乗車券の使い方や地下鉄の乗り方でまごついていることを話したところ、わざわざ入口までバックして助けてくれました。中崎支部長から、ドイツ人は親切だと聞いていたのですが、本当にそのとおりで助かりました。

Jさんには、5歳と2歳の娘がいました。子どもたちを寝かせた後、彼女がSさんから私あてに預かりものをしていって、紙袋を受け取りました。それは、「照文がプラハへの車上で腹を減らすだろうから、渡してください。私は都合で会えないので。」と言って一昨日来て置いていったとのことでした。袋の中には、果物、ジュース、チョコレート、ナッツなどが手紙を添えて入れてありました。私は、Sさんの親切に感激しました。その夜は、丁度フランクフルトから来ていた彼女の友達のカタリーナを交えていろいろな話をしました。

4月26日(土)・・・ガイドブックと市内地図を見ながら、1人でミュンヘン市内を観光。



4月27日(日)・・・プラハに向けて朝早く出発するので、朝食は断り、お茶だけいただいて7時半に Julia の家を後にしました。2歳の娘さんも窓からバイバイしてくれました。少しは私に慣れたのかなと思いました。ミュンヘン発8:44の電車に乗り、14:45にプラハ駅に着きましたが、朝から何も食べていなかったの、Sさんがくれたスイーツやジュースで空腹を満たすことができ、ありがたく思いました。



#### ④ デンマーク(L & M 夫妻)5月1日(木)～5月4日(日)

夫妻は5年前に我が家にステイしました。Lさんは教師をしていましたが、今は退職、Mさんは司法関係の仕事をしています。

5月1日(木)・・・ベルリン発7:18でデンマークのLindumに向かう。途中、トラブルがあり約50分遅れて15時頃に到着。Lilaが駅に迎えに来てくれていました。早速、Lさんの友達(75歳)の女性が入居している多世帯共同住居を訪問しました。2階建てが2棟あり、両棟の空間はアーケードで覆われております。1人暮らしには、十分過ぎるほどの部屋でした。年老いても、このような生活ができる

のは、若いときに高い税金を払っていたからだという話でした。

この後、Lilaが予め訪問のお願いをしてくれていた老人ホームを見学しました。Lさんの友達で施設職員のT & H

夫妻と娘のLさんが内部を案内してくれました。入所者は1人1部屋が保障されており、家族の経済的負担はゼロで、入所者のポケットマネーでまかなえる程度の料金を支払うだけとのこと。夜のシフトは入所者14人を2人の職員で看ているとのこと、日本の現状を話し、比較しながらあまりの違いに驚きました。施設内には、部外者も利用できるレストランがあり、入所者とのコミュニケーションも図られるような配慮もなされておりました。このようなことは、税金を40～60%払っていたことにより、可能なのだということでした。

Lilaの家に到着しましたが、こじんまりした童話に出てくるような茅葺きの家でした。周りは、のどかな田園地帯で小鳥のさえずりだけが聞こえる平和な静かなところでした。Mさんがチキンの蒸し焼きやポテト料理などデンマーク料理をして待っていていました。

5月2日(金)・・・3人でデンマーク最北端のSKAGENまでドライブ。ここは、北大西洋と北海との潮がぶつかるところで、高い波しぶきが見られるとのことでしたが、この日は残念ながら見る事ができませんでした。

5月3日(土)・・・午前中はLさんがHobloの街や教会のある街などに案内してくれました。街外れには古墳があちこちにありました。LさんがMさんと出会った学校にも立ち寄りました。午後は、近くに住んでいるLさんの友達を訪ねました。これは、私に対するサプライズだったのですが、友達が持っている2頭立ての馬車で村の中を案内してくれる企てだったのです。約1時間の“ドライブ”の間に、私にも手綱を取らせてくれました。初めての経験でした。

5月4日(日)・・・夫妻の見送りを受けてHoblo駅発9:29でOdenseに向かいました。妻(E)を是非連れてまた来なさいと言ってくれました。



#### ○ 濟州島へ九州サーバス会員(8名)の交流旅行

昨年(2007年)8月の大分豊後大野市での例会で濟州島へのサーバス旅行の話が盛り上がりました。今年度の支部会議で取り上げられ、6月27日(金)から29日(日)の2泊3日の旅行が実現しました。

韓国サーバス濟州島支部長のHさんのお世話で、楽しい旅行が実現しました。Yangさんは大変親切で、活動的に対応して頂き、旅行計画ができた段階から、九州と姉妹関係を結びたいと申し出がありましたが、今回の濟州島の会員との交流と、その後濟州島の会員さんたちが九州訪問をした後、対応するようにお願いしました。

濟州島へは九州から8名で出かけました。濟州島空港に27日到着し、29日の出国までの間、会員さんの車にお世話になりました。この3日間以下の様ないろいろのところへ観光案内してもらいました。

- 27日: Five day market, Spirited Garden, Jeju Peace Museum
- 28日: Manjang Cave, Jeju Haenyeo Museum, Sungsan Sunrise peak(入口のみ), Sungeup real Folk village, Jeju National Museum, Karaoke
- 29日: Folklore & Natural History Museum, Jeju Ceramics Museum





初日の夕方には、大変豪華な会議室に招かれ、Y 支部長さんの挨拶で始まり当方の挨拶、各人の自己紹介がなされました。記念撮影の後、場所を変えてジンギスカン鍋と韓国焼酎で大歓迎を受けました。28日は大雨の中の観光旅行でも親切に対応して頂き、それぞれの会員がホスト宅で歓迎を受けました。九州からの会員でははじめてホスト宅にステイされ大感激した会員もおられ、すべて大変楽しい旅行となりました。



この濟州島への旅行のきっかけは、日本サーバス会長が上記の濟州島支部長と交流され、2007年8月に、濟州島サーバス旅行のきっかけを作って頂きました。ありがとうございました。

## ○ 濟州島旅行の報告

宮崎市 会員

6月末、久しぶりに早起きして10時半に福岡国際空港で8名が揃いました。飛び立って50分で曇り空の濟州島空港到着。ほんとに近い海外旅行です。空から見た濟州島は全島が一目で見えて、想像していたより小さく思えました。出迎えの車2台に分乗して午後の島内回りでは、日本と変わらない風景が広がる中を走りました。沖縄に似た印象です。

夜の会食の宴会に9人の濟州島メンバーが出迎えていただき初対面でも10年らしい知り合いの雰囲気でした。ホームステイ先に分かれたのは9時すぎですが、途中で知り合いのお母さんと娘さんが同乗して遊びに来ました。夫(P)さん宅は新しいマンションの上の階です。大学生と高校生の2人の娘さんの4人家族でした。ご主人は県立病院のお医者さんです。若い学生3人を含めて英語、日本語、韓国語入り交じりでわいわい夜遅くまで賑やかに、おしゃべりしました。日本のゲームも韓国のゲームも沢山覚えました。遊ぶときは、言葉は関係ありませんね。下の娘さんの部屋を2泊3日空けていただいてゆっくりできました。風呂は洋式ですから外では体が洗えません。これは海外旅行気分でした。

翌日は小雨の中、3台の車に分乗して海岸から内陸部までぐるぐる走りましたがお日様が見えず、全く方向が分からないので「地図では今どこにいるのですかですか？」を覚えました。岬の火山は観光地でしたが、お天気のせいで麓でティータイムにしましたが少し冷えるような空気の中で奥様の梁寿烈(リョウジュレット 日本読みと同じ)さんが、熱いコーヒーとカップを用意していただけていました。朝の忙しい中いつの間準備されたのか気づきませんでした。韓国の女性はとにかく気遣いが行き届き、そして行動的です。ステイ先でも感じました。(早く言えばカカアテ・・・)昼間奥様に一日中運転していただいたので夜のガラオケは控えて、(夫(P)さんはぜんぜん運転はしません。奥様曰く彼は危ない!) ヤングガール相手に日本語と韓国語の勉強をしました。覚えがすばらしく早いし真剣です、学校の教科に日本語がありテストが厳しいそうです。そして彼女たち3人が密かに準備していたのは私の爪に「草木染めのマニキュア」をする計画でした。いろいろ揃えた道具を見て私も決心して任せました。初体験でした。お母さんが「4ヶ月先爪が伸びきるまで色は変わらない」いいながらきれいに塗ってくれました。10月まで本当に色鮮やかで会う人ごとに説明しました。そして帰ってから、大学生と高校生の二人から日本語の手紙と手書きの絵や、いろいろな組み立て唐船模型。ご主人から丁寧な日本語の挨拶状をいただきました。こちらも宮崎のいろいろな案内を届けました。大学生の姉さんは早速グループで九州旅行をしたのですが、残念ながら宮崎には来られなかったので冬休みに来るように誘うつもりです。韓国は本当に近くの町の感覚でした。私のホームステイ初体験でした、早速「面白いほど身につく韓国語CDつき」を買いましたが、行く前に買えば良かったと思います。

## ○ 雨の濟州島

筑紫野市 会員

梅雨の最中に濟州島へ総勢8人で交流の旅に出ました。会員の皆さんの暖かいもてなしを受けて改めてサーバスの素晴らしさを実感しました。滞在した H さん一家は大きな川沿いのマンション住まいで小学生の男の子が英語を話せたため助かりました。二日とも伝統的な韓国式朝食を体験出来て美味しくたっぷりいただきました。韓国の食の豊かさと奥深さを羨ましくさえ思います。心残りといえば生憎と雨が多くて素晴らしい景色を楽しむことは叶いませんでした。短い旅行でしたが九州のメンバーとの交流を深めることも出来意味深い楽しいものとなりました。

#### 4. 会費納入のお願い

今年度の会費の振り込みをまだされていない方は、下記の口座へ振込をお願い致します。

郵便振替先

口座番号 記号： 01950-6； 番号： 36441

加入者名住所： サービス九州事務局

郵便番号 889-2153

宮崎市学園木花台南 1-2-9

#### 5. トラベラー受け入れ及びサーバス旅行レポート等のお願い

トラベラー受け入れ又はサーバス旅行をされた方からの体験談・報告を下記の事務局へお寄せ下さい。会員間の情報交換になりますので、手紙又は電子メールなど短くても、また、写真添付もよいですのでお願い致します。